

福島県建築・設備設計要領

1. この要領は、福島県土木部において所掌する建築・設備設計業務における設計図作成の留意事項を定め、当該業務を円滑に執行することを目的とする。
2. 各図の作成要領は、次の各号による。

1) 建築工事

表紙	●軽微なものは省略することができる。
面積計算書	●敷地面積、建築面積、床面積、延面積、排煙面積等を表示し、計算する。
附近見取図	●工事関係者が、建設場所へ到達できる内容を有すること。
配置図	●既存建物・工作物の位置を明示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・GLのコンター、BMの位置を明示する。 ・本工事の建物・工作物の位置を明示する。 ・増築計画、近隣環境を配慮し作成する。 ・道路の名称、位置、幅員、方位、拡幅計画線を明示する。
内外仕上表	●仕上表は、原則として、内部、外部とも作成する。内部仕上表には、下地記入欄、塗装欄等を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・塗装表示記入は、JASS18塗装工事の塗装種別による記号を記入し、必ず凡例を記入する。 ・仕上げの表示に限らず、床高、天井高等を記入し使い易いよう配慮する。 ・厚さ等の寸法を記入する。
各階平面図	●各階平面図には、コンクリート壁、CB壁、木造壁の種別を凡例で明示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本工事に含まれないものは原則として記入しない。ただし、図面表示上必要なものは、点線で表示し、別途工事である旨明記する。 ・防火戸、シャッター、防煙壁等を明示する。 ・設備工事との取合上重要なものは明示する。 ・屋階平面図は、ルーフトレインの位置、屋根勾配の方向、目地切、水槽、物干、吊環、各種基礎位置等を明示する。
立面図	●立面図には、手摺、樋、タラップ、レジスター、換気孔等の位置を正確に記入し、原則として四面の立面を作図する。
断面図	●断面図には、建物の最高高さ、軒高、階高、居室天井高、窓高、床高等を記入し、またGLおよび道路との関係等も明示する。
軸組図	●木造・鉄骨造並びにこれらの構造を併用する部分について作図するものとし、筋違位置を明示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨造の建物の場合は、構造関係図に含める。

V 設計要領等

- 基礎伏図 ●木造以外の構造は、構造関係図に含める。
・床下換気孔・アンカーボルト等の位置を明示する。
- 床伏図 ●木造床、特殊床等について作成する。
・鉄骨造の建物の場合は、構造関係図に含める。
- 小屋伏図 ●木造、鉄骨造の小屋について作成する。
・鉄骨造の建物の場合は、構造関係図に含める。
- 梁伏図 ●木造以外の構造は、構造関係図に含める。
・木造梁伏図は、二階床伏図、小屋伏図に含めることができる。
・鉄筋コンクリート造等で、配管等により貫通される部分で補強を要する場合は、貫通位置、補強方法を明示する。
- 天井伏図 ●天井伏図には、露出する梁の位置、カーテンBOX、天井改口等を設備工事との関連を検討のうえ明示する。
・天井仕上げを明示する。
- 矩計詳細図 ●矩計図は、標準的断面を表示する。
・納りの複雑な部分については、拡大して作図する。
・ちり決り、雑布摺、木摺線、構造金物のボルト等も、詳細に記入する。
・設備工事等別途工事との取合方法、工事区分についても明示する。
・構造断面と仕上断面が相異なる場合は、その旨明確に表示する。
・仕上記入に当たっては、仕上表等と相異しないよう充分配慮する。
・各部詳細図のインデックス表示をする。
- 平面詳細図 ●各部寸法および部材寸法は、できる限り詳細に記入する。
・床高、床下改口、仕上げ材、造作棚等を明示する。
・設備工事等別途工事との取合方法、施工区分を明示する。
- 展開図 ●どこの展開図か明示する。(キープランの併用等適当な方法による。)
・平面詳細図と同一紙に記入してもよい。
・他の平面図と相異しないよう配慮する。
- 各部詳細図 ●流し台、下駄箱、造作棚等に附属する建具は、原則として建具表によらず詳細図に、寸法見込、レール、戸車、仕上等を明示する。
・異質材の取合い箇所、肌別れを生ずる恐れのある箇所は、亀裂対策のための工法を明示する。
・その他、平面詳細図、矩計詳細図の項に準ずる。
- 階段平面図 ●手摺固定方法を明示する。
・手摺は、連続したものとし、途中で切断しない。
・手摺高さが異なる場合は、その取扱いを明示する。
・その他、平面詳細図、矩計詳細図の項に準ずる。
- 建具表 ●建具符号図には、延焼の恐れのある部分を明示する。
・建具金物関係は、管理面、機能面等を充分検討のうえ、明細に記入する。
・ガラスの種別は、各室の用途、機能に適したものとする。

構造図

- ・建具数量は、本数によらず箇所数を記入する。
- ・建具の立面及び框枠材の決定に当たっては、ガラスの形状寸法、建具重量、用途、条件等に留意して設計し防火（甲、乙）、防煙、エアタイト等の性能を表示する。
- ・外部建具については、破損及び清掃等メンテナンスに留意し決定する。

●標準図は、原則として下記による。

1. 鉄筋コンクリート配筋標準図
2. 鉄骨仕様標準図

- ・鉄筋径別表示法、溶接記号は、標準図に準ずる。
- ・各貫通部並びに開口部は、必ず補強方法を明示する。
- ・スラブ配筋は、配筋リストのみによらず、標準平面配筋図を、必ず作成する。
- ・コンクリートの種類・強度、鉄筋、鉄骨の形状種別等を明示する。
- ・主要構造部以外の雑配筋図も詳細に明示する。
- ・仕上げ断面、計算断面の相異を明示する。
- ・増築がある場合の構造上の処理を明示する。

●基礎地業は、次表を標準とする。

原則として地業、均しコンクリートの基礎からの出は、片側 100mm 以上とする。また、均しコンクリートの厚さは、50mm 以上とする。

			地 業		
	名 称	区 分	種 別	厚 さ mm	
直 接 基 礎	砂	緩い	N<10	栗 石	150
		中位	N>10	砂 利	50
	粘 土		N>4	砂 利	50
	シ ル ト		N>4	砂 利	50
	砂 利		N>30	砂 利	50
	表 土 盛 土			栗 石	150
支 持 杭 基 礎 摩 擦 杭 基 礎	一 般		基礎直下 N>3	砂 利	50
	へ ど ろ		基礎直下 N<3	切 込 砂 利	200
				栗 石	150

V 設計要領等

2) 電気設備工事

表紙	●軽微なものは省略することができる。
附近見取図	●工事関係者が建設場所へ到達できる内容を有すること。
配置図	●引入口、第1支持点の位置及び電気供給者の配電線路（高低圧別、電柱及び電柱番号等）を記入し、工事分界点、財産分界点を明白にする。
配線平面図 ・配線平面 詳細図	●各階毎平面図とし、図面が混みいる場合は詳細図を書く。配線平面図は、電灯設備、コンセント設備、動力設備、弱電（電気時計、放送、電鈴、テレビ共聴、その他）設備、電話配管配線設備、火災報知設備等に区分して作成する。規模が小さく、図面1枚に書き得る場合には、縮尺1/50で書き、配線平面図と配線詳細図を共用することができる。
建物断面図	●立上り、引下げ等の積算に供し得る建物平面図を書き、幹線立上り配線及び階段周り、電灯位置、立上り、配線系統を記入する。
配線系統図	●電灯設備にあって引入口から各分電盤、開閉器函類までとし、その他の設備にあっては引入口又は電源から末端までを記入する。
配分電盤、 制御盤等結 線図	●配線系統図と共用するものとし、配線系統図中それぞれの位置に結線図を記入する。又器具の材質、厚み、仕上等の仕様を記し、必要により姿図寸法等を書く。
照明器具そ 他の器具 姿図	●姿図（又はその略号）を書き、これに記号を附し器具取付表に記入する。
器具取付図	●代表的な器具には、取付ボルトの位置、寸法等も含めて、正面図、側面図、平面図、断面図等を書く。
屋外配線図	●建築物外に施設する屋外配線等必要なものを記載し、架空配電線路であって電柱を施設する場合は装柱図を書く。埋設電路の場合は埋設断面図を書く。
機械室配線 図	●電灯、動力配線図を記入し、必要に応じ断面図等を図示する。
受変電設備 機器接続図	●単線接続図を記載し、制御回路図（シーケンス図）を併記すること。なお、必要あるときは、複線接続図を記載する。
受変電設備 機器配置図 及び配線図	●基本計画に基づいて、電気室の広さは現在容量の25%増になっても支障ないように計画し、将来の増設を考慮する。
同上立面図 共通事項	●正面図及び側面図を書き、正面図は配電盤正面図と共用する。 ●設計図記載にあたっては、別途工事設計者と充分打合せを行い、施工にあたって、取付不能、配管配線の布設不能の生じない様留意し、建築の用途に適合し、充分建物を能率よく利用出来る様配慮する。又第三者が電気設備の図面を見るだけで、工事出来る程度に要領よく、しかも積算（見積り）出来る様書く。なお、建築平面図は裏書きをし、最低限度次の程度を表示する。 （イ） 間取りと室名 （ロ） 壁の種類（コンクリート、ブロック、木造等の区別）

3) 機械設備

表紙	●軽微なものは省略することができる。
附近見取図	●主として屋外給水、排水、ガス管等、分岐引込管、放出管等記載する。 道路掘削を伴う場合は、公私道及び道路舗装等の別、本管位置、管種、管径等を記入する。 掘削断面図も場所ごとに記載する。
器具取付表	●各室ごとに、この工事にて取付ける器具総てを明確に記入する。
系統図	●建物の階高を表し、各配管別に管路系統を記入する。
平面図	●各階毎平面図とし、図面が混みいるような場合は、平面詳細図を給水、排水、ガス、消火、暖房、ダクト換気設備等に分けて書く。
詳細図	●各機器の取付位置等は充分検討し、特に建築及び他設備との取合、納りについて建築設計者と充分打合せの上、保守管理が容易になる様留意して設計する。
給水設備	●水道本管分岐より受水槽迄を屋外給水とし、受水槽以降を屋内給水とする。 (1) 受水槽 ポンプ室内配管、ポンプ据付図等の平面及び立面、ポンプの仕様等を記入する。 (2) 高置水槽 給水源の最大使用時の水圧が、最高階末端の器具に給水する圧力に足りない場合は、高置水槽を設置する。 但し、水道事業者の規定がある場合はその規定によるものとし、平面、立面図、水槽廻り配管を記入する。 特に、建築構造体を貫通する配管のある場合で水密を要する箇所は、その取合の詳細を図示する。
排水設備	●排水勾配による配管スペース、特に天井内の納りに留意し、建築構造体の貫通等については、事前に建築設計者と充分協議し、設計する。 ・建物よりの第1 桝より屋外排水とし、各排水桝、雑排水桝は標準図に示されたもので、桝番号、管底高を記入する。
消火栓設備	●消火栓は、消防法その他関係法令に適合する様関係機関と充分打合せ設計するものとする。 消火ポンプは十分な揚水量、揚程のあるものとし、消火管は高置水槽と接続し、接続箇所はチャッキ弁を設ける。
給湯設備	●給湯缶容量は余裕ある様設計し、特に吸排気に留意し、工事区分については建築設計者と打合せ、明確に表示する。なお燃料による煙突等について関係法令に適合する様関係機関と事前に打合せを行うものとする。
ガス設備	●各機器の取付位置を充分検討し、管径及び吸排気についてガス供給事業者と事前に打合せ、保安管理上問題のない様設計する。
し尿浄化槽設備	●躯体の平面、断面詳細図、散水樋、砕石受、散気管、送風機等の取付詳細、汚水ポンプのある場合は据付図及びポンプ仕様を記入する。 ・本設備については、建築基準法及び関係法令に適合し、且つ処理汚水の放流場所については関係機関と充分打合せの上設計するものとし、届出仕様は図面に明記する。
暖冷房空気調和設備	●各配管、ダクティング等作業スペースについて建築設計者と充分打合せを行い、建築構造

V 設計要領等

エレベーター設計

体貫通等、構造設計に支障ない様留意する。

- ・排気煙突等については、給湯設備の項に準ずる。なお、関係機関届出仕様は図面に明記する。

- 建築基準法及び関係法令に適合することは勿論、特にオーバラン及びピットについては、建築設計者と事前に打合せ、遺漏のない様設計する。なお、関係機関届出仕様は図面に明記する。

V 設計要領等

6	器具取付図		
7	分電盤制御盤結線図		
8	動力設備平面図	1/50~1/100	
9	動力設備詳細図	1/20~1/50	
10	動力設備系統図		
11	動力盤制御盤結線図		
12	器具取付図		
13	受変電設備機器接続図		
14	受変電配置及び配線図	1/20~1/50	
15	受変電立面図、詳細図	1/20~1/50	
16	自家発電設備機器接続図		
17	自家発電配置及び配線図		
18	自家発電立面図、詳細図		
19	弱電設備平面図	1/50~1/100	
20	弱電設備詳細図	1/20~1/50	
21	弱電設備系統図		
22	弱電設備器具姿図		
23	構内配電線路図	1/200~1/300	
24	構内弱電線路図	1/200~1/300	
25	その他必要な図		
26	建築		各階平面図、立面図、断面図、天井伏図、矩計詳細図
1	機械図		
2	主要器具表面図	1/50~1/100	
3	給水排水配管平面図	1/20~1/50	
4	給水排水水系統図	1/50~1/100	
5	屋外配管図	1/20~1/300	
6	屋外詳細図	1/20~1/50	
7	消火設備平面図	1/50~1/100	
8	消火設備詳細図	1/20~1/50	
9	消火設備系統図		
10	給湯・ガス設備平面図	1/50~1/100	
11	給湯・ガス設備詳細図	1/20~1/50	
12	給湯・ガス設備系統図		
13	し尿浄化槽図等設備詳細図	1/20~1/50	
14	空気調和設備配管平面図	1/50~1/100	
15	空気調和設備配管詳細図	1/20~1/50	
16	空気調和設備配管系統図		
17	空気調和ダクト平面図	1/50~1/100	
18	空気調和ダクト詳細図	1/20~1/50	
19	空気調和ダクト系統図		
20	空気調和機器配置図	1/20~1/50	
21	空気調和自動制御図		
22	換気設備平面図	1/50~1/100	
23	換気設備詳細図	1/20~1/50	
24	換気設備系統図		
25	エレベーター設備平面図	1/20~1/50	
26	エレベーター機械室詳細図	1/20~1/50	
27	エレベーターカゴ詳細図	1/20~1/50	
28	エレベーターシャフト詳細図	1/20~1/50	
29	エレベーター電気配線図	1/20~1/50	
30	その他必要な図		
31	建築		各階平面図、立面図、断面図、天井伏図、矩計詳細図

総括-1

設計委託業務チェックリスト

科 目	内 容	チ ェ ッ ク 項 目
面積計算書		<ul style="list-style-type: none"> 敷地面積、建築面積、床面積等の表示はどうか。
配 置 図		<ul style="list-style-type: none"> 敷地の形態は適正か。(GLのコンター、BMの明示) 既設建物、計画建物の位置、敷地境界から離れ等の明示 仮囲い等の明示 道路の名称、位置、巾員、計画道路、拡巾等の明示
内外仕上表		<ul style="list-style-type: none"> 記号を用いる場合、凡例の記入(塗装等) 仕上下地の記入、寸法の明示 難燃、不燃の別、認定番号記入 床高、天井高さの記入 各室の備品の記入(含、別途の別を記入)
意匠一般図	平 面 図	<ul style="list-style-type: none"> 寸法線(通り芯の関係)の明示が適正か。 コンクリート、CB、木造、軽量鉄骨間仕切、ALC版等の壁の明示を凡例で処理する。 防火戸、シャッター等の明示 ルーフドレン(堅樋)の位置、屋根勾配の方向、目地切、物干、吊り金物、各種基礎の位置の明示 各室の取付け(カーテンボックス、暖房器具、換気扇、ガラリ、棚、備品、床点検口等)の明示 各建具(ドア)の開き勝手のくい違いはないか。 防火区画、防煙区画の明示
	立 面 図	<ul style="list-style-type: none"> 仕上げの明示 手摺、樋、タラップ、レジスター、換気孔等の明示
	断 面 図	<ul style="list-style-type: none"> 最高の高さ、軒高、階高、各室天井高さ、GLからの1F高さ、等の明示
	天 井 伏 図	<ul style="list-style-type: none"> 天井開口、カーテンBOX、レジスター等の明示 天井に取り付く家具等の明示
	暖房トレンチ図	<ul style="list-style-type: none"> 床点検口、カマバ、水勾配等の明示

V 設計要領等

総括-2

科 目	内 容	チ ャ ッ ク 項 目
意匠一般図	建 具 表	<ul style="list-style-type: none"> • 窓については、FLよりの高さを明示 • 金物は、管理、機能面から充分検討し、明示すること。 • 数量の確認をすること。 • ガラスの種別は、各室の用途、機能に適したものになっているか。 • 各建具の寸法（巾×高さ）、見込み厚さの明示 • 性能の明示（例、防煙シャッター）
詳 細 図	平 面 詳 細 図	<ul style="list-style-type: none"> • 通り芯、柱芯、壁芯の関係が明確になっているか。 • 各部寸法、厚さ、部材寸法は、明確になっているか。 • 床高さ、仕上、作り付け棚、実験台、書架等及び別途工事分を明示してあるか。
	矩 計 詳 細 図	<ul style="list-style-type: none"> • 通り芯、柱芯、壁芯の関係が明確になっているか。 • 階高、天井高さ、腰壁、下がり壁、スパン寸法、その他各部寸法、厚さ、部材寸法は、明確になっているか。
	各 部 詳 細 図	<ul style="list-style-type: none"> • 平面断面上の納りが明示してあるか（平面詳細、矩計の関係） • 各部寸法、部材寸法、仕上等が明示してあるか。 • 下地材の取合い、異質材の仕上等の処理が適正か。
	展 開 図	<ul style="list-style-type: none"> • 通り芯、各部寸法（室間寸法、天井高さ）を明示すること。 • 仕上、壁面に取付く黑板等、備品、開口部（内法寸法）を明示すること。 • 設備機器の取付を明示すること。
構 造 図		<ul style="list-style-type: none"> • 地質調査結果（柱伏図）の明示
	基 礎 伏 図	<ul style="list-style-type: none"> • 通り芯、柱芯、壁芯の関係が明確になっているか。 • 各部寸法、逃げ芯関係の明示 • 基礎杭の間隔、へりあきは適正か。 • 地中梁の貫通孔の位置

総括-3

科目	内容	チェック項目
構造図	梁伏図	<ul style="list-style-type: none"> ・通り芯、柱芯、壁芯の関係が明確になっているか。 ・各部寸法、逃げ芯関係の明示 ・貫通スリーブ位置の記入 ・床開口部の大きさ、位置の記入
一般共通事項	建物の機能、動線計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・主務課の与条件をみたしているか。 ・平面計画及びブロック計画をあらゆる角度から検討したか。 ・内部動線、外部導入動線計画が良く整理され処理されているか。 ・防災、避難計画について、利用者にわかりやすく、良く整理されているか。 ・地域の環境面に対する配慮はよくなされたか。 ・設備面の配慮はどうか。(配管スペースの集約及びメンテナンス等の配慮)
	景観について	<ul style="list-style-type: none"> ・景観形成に対する配慮はなされたか。
	身障者・高齢者等に対する配慮はなされたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由者への配慮はどうか。 ・視覚障害者への配慮はどうか。 ・聴覚障害者への配慮はどうか。 <p>(注) 詳細については、表-1による。</p>
	維持管理面の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・設備ランニングコスト面は、用途から考えて適切であるか。 ・メンテナンスのし易い建物かどうか。 <p>DS、PS及び機能のレイアウト、又設備機器等の入替え搬入等について考慮したか。</p> <p>(例) 機械室出入口扉の有効寸法、廊下の中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備面だけでなく、建物全体が管理しやすい建物であるか。
特記仕様		<ul style="list-style-type: none"> ・完全に表示されているか。(仕様書の項目にない材料、工法について表示してあるか)

V 設計要領等

表-1 身体障害者・高齢者等の特性と設計チェックポイント

項目	基本的な不自由	設計チェックポイント
<p>1) 肢体不自由者 車いす使用者</p> <p>歩行困難者</p> <p>2) 視覚障害者盲・ 準盲者</p> <p>弱視者・視機能障 害者</p>	<p>平地での移動はよいが、段差を登ることは困難。ある程度以上急な傾斜は登れない。 溝にキャスター（車イスの小輪）がはまると動けなくなる。 ぬかるみは通行不能。床と車輪との摩擦がある程度必要だがそれが大きすぎると移動や回転が困難、回転時には床にかなりの摩擦を与える。幅の狭いところは通れない。 狭いところでは回転できない。</p> <p>横方向に直接移動することは不可能で横への移動には手間がかかる（往復移動が必要になる。） 高いところに手が届かない。</p> <p>横方向や前後方向にも手の届く範囲に限られる。</p> <p>移動時に両手がふさがれる。 雨の日にカサがさせない。 頭（上半身）の位置が低い。</p> <p>膝・肘受けの高さが通常の高さの座位よりも高い。 車いすから他のものへの乗り移りにスペースが必要。 段差の斜面での移動が困難</p> <p>足先がひっかかると転倒の危険がある。 杖先が滑ると危険。 溝に杖先がはまる危険。</p> <p>松葉杖の先が開くので、幅の狭いところは歩みにくい。また回転スペースが広く要る。 しゃがめない。</p> <p>歩行には、歩行幅、歩行距離、足裏の感触、音、におい、光の方向等に頼るしかない。 日常的な伝達方法として音もしくは感触等に頼るしか方法がないので不便。 型、位置、状態を確認することが困難。</p> <p>通常の状態で読み書きができない。 基本的には盲、準盲に準ずるが、多少目が見えることから注意力が散漫になりやすい。 色盲は色の区別が困難。 視野狭さくは、見える範囲が狭いため素早い対応が困難。</p>	<p>歩道の縁石、建物出入口の段差、スロープの勾配 エレベーターのかごと床のすき間、グレーチングや金属性の靴泥落としのすき間 床仕上げ</p> <p>出入口や廊下の幅 廊下の曲がり角、出入口ドアの前後、便房の広さ カウンター、電話、自動販売機</p> <p>呼出し設備やエレベーターの操作ボタン、公衆電話などの位置 洗面器、カウンター、自動販売機、水飲み台などの位置、高さ、フットレストクリアランス 庇</p> <p>自動扉の感知方法（超音波など）、手洗い器・台所の流し・鏡などの位置 机・テーブル・手洗い器などのクリアランス</p> <p>便器の周囲のクリアランス、駐車場の幅</p> <p>建物入口の大きな段差・急勾配の斜面 段差の勾配（手すりさえあれば可能なこともある） 路面の凹凸、階段の段鼻 床仕上げ グレーチングのすき間、エレベーターのかごと床のすき間 廊下や出入口の幅、便所内のスペース</p> <p>和風便所 通路の径路、通路両端の段差、路上の一時的な障害 拡声器の音量</p> <p>呼び出し設備、出入口の位置、開閉方法、便所のタイプ、便器の選択 諸注意事項の認知方法、記述品等の取扱い 標識類の位置、大きさ、色彩</p> <p>色彩による危険表示、注意表示 歩道分離等の動線処理 色彩による危険表示、注意表示</p>

項 目	基 本 的 な 不 自 由	設 計 チェックポイント
3) 聴覚障害者	音が聞こえないため、視覚、におい、触覚、動作等に頼るしかない。特にお互いの意志の伝達に問題がある。 警報器、信号音、ブザー等は利用できない。	呼出し設備の仕様方法 標識類の位置、大きさ、色彩 歩車道分離 呼出し設備、避難警報ベル等へのシグナルの付加

V 設計要領等

意匠-1

科 目		内 訳	チ ェ ッ ク 項 目
一般共通事項		<ul style="list-style-type: none"> ・運用基準 ・特殊工法 ・発生材の処理 ・地質調査結果表の図示 ・設備工事との取合、明確化 ・増築部の取合 ・特殊な養生方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・特記仕様書に記録（メーカー仕様書によるものも含む） ・有 ・無 ・有 ・無 ・有 ・無 ・工事範囲表に記載 ・有 ・無 ・有 ・無
仮設工事		<ul style="list-style-type: none"> ・設計 GL の明確化 ・仮囲い、危害防止の表示 ・工事用進入路の仕様、表示 ・仮設電力、用水の仕様、表示 	
土工事		<ul style="list-style-type: none"> ・根切り工法の明確化 ・のり面養生の表示 ・埋戻し盛土の表示 ・残土処分の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンカット ・山留め工法 ・有 ・無 ・特記 ・その他 ・特記 ・その他
地業 工事	くい地業	<ul style="list-style-type: none"> ・運用基準 ・工事範囲の明確化 ・設計 GL の明確化 ・進入路の仕様 ・養生シートの仕様 ・仮囲い等の表示 ・地質調査の表示 ・建物、平面図、立面図の添付 	
	割り石地業等	<ul style="list-style-type: none"> ・割り石、玉石、砂利地業の種別 ・巾、厚さの明確化 ・均しコンクリートの巾、厚さの確保 	

意 匠-2

科 目		内 訳	チ ェ ッ ク 項 目
鉄筋コン クリート 工 事	総 合	<ul style="list-style-type: none"> ・運用基準 ・種 別 ・計算書の不一致 ・ジョイントの種類表示 ・ラーメン図、軸組図の構成 	
	柱	<ul style="list-style-type: none"> ・配筋リスト、xy 方向の確認 ・フープの形状 ・3階以上1Fのスープ筋又は4隅柱 	
	梁	<ul style="list-style-type: none"> ・段違いの処理 ・スターラップの形状 	
	地 中 梁	<ul style="list-style-type: none"> ・ピット、トレンチ ・土間の収合 ・地業の巾、厚さの表示 	
	基 礎	<ul style="list-style-type: none"> ・土に接する部分のかぶり厚さの表示 ・地中梁、接合部の補強 	
	壁	<ul style="list-style-type: none"> ・壁配筋の表示方法 ・パラペット、腰壁、垂れ壁の配筋の表示 ・壁開口部の表示 ・壁スリット工法、材質、寸法の表示 	
	床 版	<ul style="list-style-type: none"> ・スラブ配筋の表示方法 ・スラブ配筋、スパーサーブロック位置の表示 ・補強筋の表示 	

V 設計要領等

意 匠 - 3

科 目		内 訳	チ ェ ッ ク 項 目
鉄筋コン クリート 工 事	床 版	<ul style="list-style-type: none"> ・R 階スラブの明確化 ・土間スラブの検討 	
	階 段	<ul style="list-style-type: none"> ・スラブ受、壁の状態 ・踊場、補強筋の表示 	
	は り 貫 通 孔	<ul style="list-style-type: none"> ・補強筋の表示 	
	床スラブ 貫 通 孔	<ul style="list-style-type: none"> ・補強筋の表示 	
	増 築 部	<ul style="list-style-type: none"> ・増築部の配筋表示 ・増築部の防水処理 	
	そ の 他 納 り	<ul style="list-style-type: none"> ・防火下地、立上りの欠き込み ・打継ぎ部の目地 ・打放しと各部各仕上の処理 ・各部の目地処理 	
鉄 骨 工 事	<ul style="list-style-type: none"> ・運用基準 ・材 質 ・取付ボルトの表示 ・溶接材料の表示 ・使用部材リストの構成 ・柱脚の固定度 ・設計 GL と ベースプレート下端 ・カバープレート、ガセットプレートの厚み ・通芯と鉄骨芯の表示 ・プレースの詳細 ・プレース、一般図と構造図の不一致 ・鉄骨と仕上材の納り ・母屋ピッチと胴縁ピッチ 		

V 設計要領等

意匠-5

科 目		内 訳	チ ェ ッ ク 項 目
防水工事	合 成 高 分 子 ル ー フィ ン グ	・各部の納り	
	コ ン ク リ ー ト 防 水		
	塗 膜 防 水		
石 工 事	花こう岩 類・石張 り	・種別、仕上等の特記 ・金物等の表示	
	大理石張 り	・種別、仕上等の特記 ・金物等の表示	
	テラゾー ブロッ ク張 り	・種別等の特記 ・金物等の表示 ・使用場所の適正	
タ イ ル 工 事	・種別、工法等の特記 ・各部伸縮目地の適正 ・寒冷地外壁面のタイル張り ・異種仕上との取合 ・各部との納り ・金物等の表示		
木 工 事 木 造 工 事	・樹種等の特記 ・断面寸法の表示（各部） ・金物の表示 ・接着剤の表示 ・防腐処理の表示 ・出入口枠材の表示（釣元） ・各部の納り ・胴縁、野縁の間隔寸法 ・防蟻処理表示		

意匠-6

科目		内 訳	チ ェ ッ ク 項 目
屋根及び とい工事	屋 根	<ul style="list-style-type: none"> ・運用基準 ・瓦棒ピッチの表示 ・棟廻り破風廻り ・軒先廻りの詳細 ・外壁との取合 	
	と い	<ul style="list-style-type: none"> ・種別の特記 ・受け金物の表示 ・防露の特記 ・ルーフトレンの間隔 ・種類の表示 	
金 属 工 事	表 面 処 理	<ul style="list-style-type: none"> ・表面処理の表示 	
	軽 天 下 地	<ul style="list-style-type: none"> ・種別の特記（間隔） ・開口部の補強 ・下がり壁等の図 	
	軽 量 鉄 骨 下 地	<ul style="list-style-type: none"> ・種別の特記（間隔） ・開口部の補強 	
	手 す り	<ul style="list-style-type: none"> ・材 種 ・床面からの高さ 	
左 官 工 事	モルタル 塗 り	<ul style="list-style-type: none"> ・下地材の考慮 ・目地切の表示 ・ハケ引き、コテ塗りの使い分け ・入り隅、出隅の処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・収縮防止 ・異種仕上の接点
建具工事	アルミニ ウ ム 製	<ul style="list-style-type: none"> ・種別の特記 ・出入口、ステンレスくつづり ・金物、ガラスの種類 	

V 設計要領等

意匠-7

科 目		内 訳	チ ェ ッ ク 項 目
建 具 工 事	鋼 製	<ul style="list-style-type: none"> • 出入口のステンレスくつづり厚さ • 金物、ガラスの種類 	
	シャッター	<ul style="list-style-type: none"> • シャッターの仕様 • 防火シャッター工事範囲 	
	木 製	<ul style="list-style-type: none"> • 種別の特記 • フラッシュ板の種類厚さ • 各建具の見込寸法 • 各建具の金物表示 • 硝子の種類、厚さ • 特殊建具、納り等の図示 	
塗 装 工 事		<ul style="list-style-type: none"> • 運用規準 • 各下地による使い分け 	
内 装 工 事		<ul style="list-style-type: none"> • 運用規準 • 接着剤の表示 • 各工法により納りの表示 	
雑 工 事		<ul style="list-style-type: none"> • シーリングの種別の特記 • 各シーリングケ所の寸法表示 	

法 令-1

	適用条項			審査事項	適・否
	法	令	条例		
道 路	法42.	令131の2		道路 第 項 号道路	適・否
	法42. 43.	令144の4	条例3. 条例4.	角地の建築制限 建端物の敷地と道路	適・否 適・否
	法43. 44. 47.	令145 令147		道路内に建築できる建築物の基準 接道、道路突出、壁面線	適・否 適・否
用 途	法48.			用途地域 ()	適・否
容 積 率	法52.			容積率 (/)	適・否
建 ぺ い 率	法53.			建ぺい率 (/)	適・否
外 壁 ・ 高 さ	法54.	令130の10～ 135の5	条例43の 13	第1種、第2種低層住専内の外壁後退	適・否
	法55.			第1種、第2種低層住専内の絶対高	適・否
	法56.			道路斜線、隣地斜線、日影北側斜線	適・否
	法61.			日影による中高層建築物の高さの制限	適・否
	法62.			防火地域内の建築制限 耐火、簡耐、その他	適・否
防 火 (22条、防火準防火地 域)	法23.			土塗壁	適・否
	法24.			木造特殊建築物の外壁等	適・否
	法22. 63.			屋根不燃 ()	適・否
	法64.			防火戸	適・否
	法66.			看板等の防火措置	適・否
	法67.			防火・準防火地域にまわたる場合 防火： m ² 準防火： m ²	適・否

V 設計要領等

法 令-2

	適用条項			審査事項	適・否
	法	令	条例		
敷地	法19.		条例5.	衛生安全 がけ地	適・否 適・否
耐火建築物	法27.	令107~110 令115の2、116		耐火建築物、簡易耐火建築物	適・否
居室	法28.	令19~20の4		採光、換気	適・否
	法29.			地階の禁止	適・否
	法35の3	令111		無窓居室	適・否
	法36.	令21. 22.		天井高、床高	適・否
遮音	法30.	令22の2		長屋、共同住宅の界壁	適・否
階段	法36.	令23~27		階段（寸法、踊場、手摺）、傾斜路	適・否
	法35.	令120~121の2		直通階段（歩行距離、2以上の直通階段屋外階段の木造禁止）	適・否
		令122. 123.		避難、特別避難階段	適・否
廊下	法35.	令119		廊下幅	適・否
出口	法35.	令118 令125 令125の2		客室出口	適・否
				屋外出口	適・否
				出口の錠前	適・否
屋上広場	法35.	令126		手摺、屋上広場	適・否
敷地内通路	法35.	令128. 128の2		敷地内通路、渡り廊下	適・否
防火区画	法36.	令112 令113 令114	条例44.	防火区画 防火壁の位置 界壁の防火構造	適・否 適・否 適・否
特殊建築物 (学校)	法24. 27	令115の2~ 115の4. 116	条例6.	適用建築物の該当	する・しない
			条例7.	4階以上の教室の禁止（小学校、盲・ろう学校）	適・否
			条例8.	廊下、広間、屋公等に面して2以上の出入口	適・否
			条例9.	屋外への出入り口	適・否
			条例11.	耐火建築物でない建物の上階への共同住宅設置の禁止	適・否
			条例12.	直通階段	適・否
(体育館等) (共同住宅等)	条例13.	直下階の内装	適・否		

法 令-3

	適用条項			審査事項	適・否
	法	令	条例		
(自動車車庫)			条例21. 条例22. 条例23. 条例24. 条例24の2 条例25.	敷地と道路との関係 前面空地 構造 構造設備 大規模自動車車庫の構造及び設備 その他の用途との区画	適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否
(ホテル旅館等)			条例27. 条例28. 条例29.	外壁等の構造 直通階段 廊下の幅員	適・否 適・否 適・否
(劇場・映画館等)			条例34. 条例35. 条例36. 条例36の2 条例36の3 条例37. 条例38. 条例40. 条例40の2 条例40の3	敷地と道路との関係 前面道路 客用の屋外へ通ずる出入口等 客用の階段 客用の廊下 客席部の出入口 客席内の構造 客席が避難階段以外にある興業場等 客席部と舞台部との区画 舞台部との防火措置	適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否
(展示場)			条例40の6 条例40の7	直通階段 屋外への出口	適・否 適・否
(その他特殊建築物)			条例41. 条例43.	外壁等の構造 空地の保有	適・否 適・否
昇 降 機	法34.		条例45. 条例46.	昇降機の電気配線 エスカレーターの点検口	
内 装	法35の2	令128の3 の2～129		特殊建築物の内装	適・否
非 常 用 の 進 入 口	法35.	令126の6. 126の7		非常用進入口	適・否
総 合 的 設 計	法86.			総合的設計による一団地	適・否
仮 設 建 築 物	法85.	令147.		仮設建築物に対する制限の緩和	適・否
構 造	法20.	令62の2～ 62の8 令63～70 令71～79. 令79の2～ 79の4 令80の2		補強コンクリートブロック造 鉄骨造 鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造 その他	適・否 適・否 適・否 適・否 適・否

V 設計要領等

法 令-4

	適用条項			審査事項	適・否
	法	令	条例		
避 雷	法33.	令129の14. 15		避雷針	適・否
昇 降 機	法34.	令129の3. ～129の13 令129の12 の2. 令129の12 の3		構造、機械室 非常用昇降機	適・否 適・否
排 煙 設 備	法35.	令12の2. 126の3		排煙設備	適・否
非 常 用 照 明	法35.	令126の4. 126の5		非常用照明設備	適・否
換 気 設 備	法28. 36	令20の2～ 20の4 令112～114 令129の2の2 ～129の2の4		換気設備 防火区画の貫通（配管、防火ダンパー）	適・否 適・否
便 所	法31.	令28. ～34.		便所	適・否
工 作 物	法88.	令138～144 の2		工作物	適・否
そ の 他					

法令-5

	適用条項			審査事項
	法	令	条例	
その他の特殊建築物	24. 27		41.	外壁等の構造（適・否）
			43.	空地の保有（適・否）
高さ	56.	135の4の2～ 135の4の3	43の4	中高層の日影時間の指定（適・否）
防火壁	26.	113	44.	防火壁の位置（適・否）
昇降機	34.		45. 46.	昇降機内の電気設備（適・否） エスカレーターの点検口（適・否）
仮設建築物	85.		47.	制限等の緩和（適・否）
その他				

V 設計要領等

構造 鉄筋コンクリート - 1

構造種別・規模		造	地下 地上	階 階	塔屋 階	建築 面積	m ²	延床 面積	m ²	軒高 最高	m			
項 目		適用条項		チ ェ ッ ク 項 目										
荷 重 及 び 外 力	固 定 荷 重	令84.		特記事項のみ記入										
	積 載 荷 重	令85. 構指	対 象 室の種類	スラブ	小梁	大梁・柱	地 震	備 考						
									kg/m ²					
										kg/m ²				
										kg/m ²				
										kg/m ²				
										kg/m ²				
										kg/m ²				
										kg/m ²				
	特 殊 荷 重	令83.		・有 ・無										
積 雪 荷 重	令86.	告1,074 条細19	最深積雪量	cm	単位荷重	kg/m ² /cm								
風 圧 力	令87.	告1,074	速度圧採用式	$q = 60\sqrt{h}$		$q = 120^4\sqrt{h}$								
地 震 力	令88.	告1,793 構指	標準せん断力係数 Co=											
土 圧	令83.		擁壁	Ka=										
使 用 材 料	コンクリート	令74. 令91.	強度 Fc=N/mm ²		使用場所									
	鉄 筋	令90.	告1,794	SR	SD									
	鋼 材	令90.	告1,794	SS	SM	SN								
	ボ ル ト	令90.	告1,795	高力ボルト	中ボルト									
	ア ー ク 溶 液	令92.	告1,794											

構造 鉄筋コンクリート-2

項 目		適用条項	チ ェ ッ ク 項 目			
地耐力及びくいの耐力	地盤調査	令93. 告111	地盤調査 有 無 結果表 深さ m	支持層の 土 質		N 値=
	許容地耐力	令93. 告111	基礎 深さ GL - m	計算上 の採用 Df = m		長期 短期 t/m ² t/m ²
	くいの許容耐力	令93. 告111	くい種	くい径 cm	くい長さ m	長期 t/本
			負の摩擦力の検討 有 無			短期 t/本
			水平力に対する検討 有 無			短期 t/本
基礎	型 式		・ 独立基礎	・ 複合基礎	・ 布基礎	・ ベタ基礎
	接 地 圧		長期 最大接地圧 (又はくい反力)=		短期 最大接地圧 (又はくい反力)=	
	偏 心		偏心基礎 有 無		有のときの処理方法	
	異 種	令38.	異種基礎の併用 有 無 (原則として異種基礎の併用は避ける)			
	沈 下	令38.	沈下に対する検討 有 無			
	隣 接		隣接建物に対する考慮 有 無			
構造計画	剛 性 の 確 保	令36.	変形計算の 有 無			
	靱 生 の 確 保	令36.	ピロティ階の 有 無			
	振 り の 補 正		壁配置による振り回避考慮の 有 無			
	エクスパンション		エクスパンションの 有 無		基礎は 一体 別	
	転 倒		転倒検査の 有 無 H/B=			
	増 築 予 定		増築予定 有 無 増築時 階 GL+ m			
	屋 上 増 築		屋上の増築工事の取扱い			

V 設計要領等

構造 鉄筋コンクリート-3

項 目		適用条件	チ ャ ッ ク 項 目									
準 備 計 算	ラーメンと壁	階 方向	B ₂	B ₁	1	2	3	4	5			
	ブ レ ー ス	x 方向 ラーメン (%)										
	分 担 比	y 方向 ラーメン (%)										
	水平力の算定	建物 重量 (t/m ²)										
応 力 計 算	鉛直荷重時	令82.	剛域考慮 有 無					壁による梁応力低減 有 無				
	水平荷重時	令82.	フェースモーメント採用 有 無									
	柱せん断力		Myによるもの			Qsの割増によるもの				割増係数 1.5 2.0		
	梁せん断力		Myによるもの			Qsの割増によるもの						
断 面 算 定	柱の断面算定	告2,056 令77.	柱の細長比による応力の割増計算 有 無									
	梁の断面算定	令78.	ハンチ付きの時のハンチ端の応力検討									
	柱のせん断計算		Qal=bjafs			QAs=bj[fs+0.5wft (pw-0.002)]						
	梁のせん断計算		Qal=bJ[αfs+0.5wft (pw-0.002)]									
	耐 震 壁		Q ₁ = γ t l f s			Q ₂ = γ (Q _w + Σ Q _c)						
	特殊部の検討		ピロテイー階の柱、隅柱の2方向応力の検討									
基 礎	基礎ばりの剛比		基礎ばりの内柱に対する剛比									
	水 平 力											
	引 抜 力		基礎浮上り 有 無									

構造 鉄筋コンクリート-4

項 目		適用条項	チ ェ ッ ク 項 目										
耐震上の検討(二次設計)	① H ≤ 20	2次設計の必要性	告1790右の場合 は必要なし	Σ25Aw + Σ7Ac ≥ ZW _{Ai} () ()									
	② (①以外)	層間変形角	令 82 の 2	<ul style="list-style-type: none"> • σ/h ≤ 1/200 • 検討の必要なし 									
			階										
			方向										
			x 方 向										
		y 方 向											
	③ H ≤ 31	剛性率	令 82 の 3	<ul style="list-style-type: none"> • R_s(=re/̄re) ≤ 0.6 • 検討の必要なし 									
			階										
			方向										
			x 方 向										
		y 方 向											
	③ H ≤ 31	偏心率	令 82 の 3	<ul style="list-style-type: none"> • R_e(=e/̄re) ≤ 0.15 • 検討の必要なし 									
			階										
			方向										
	③ H ≤ 31	その他	告 1 7 9 1	<ul style="list-style-type: none"> • Σ25Aw + Σ7Ac ≥ 0.75Z_{Ai} (=) • Σ18Aw + Σ18Ac ≥ ZW_{Ai} (=) • 曲げ破壊先行型の確認 • 検討の必要なし 									
階													
方向													
x 方 向													
	y 方 向												
④ H ≤ 60	保有水平耐力	令 8 2 の 4 告 1 7 9 2	<ul style="list-style-type: none"> • Q_u ≥ Q_{un} (=D_sF_{es}Q_{ud}) • 検討の必要なし 										
		階											
		方向											
		x 方 向											
	y 方 向												

V 設計要領等

構造 鉄骨造-1

構造種別・規模		造	地下 地上	階 階	塔屋 階	建築 面積	㎡	延床 面積	㎡	軒高 最高	m m
項 目		適用条項		チ ェ ッ ク 項 目							
荷 重 及 び 外 力	固 定 荷 重	令84.		特記事項のみ記入							
	積 載 荷 重	令85.	構指	対 象	スラブ	小梁	大梁・柱	地 震	備 考	室の種 類	
	特 殊 荷 重	令83.		・有 ・無							
	積 雪 荷 重	令86.	告1,074	最深積雪量	cm	単位荷重	kg/㎡/cm				
風 圧 力	令87.	告1,074	速度圧採用式		$q = 60\sqrt{h}$		$q = 120^4\sqrt{h}$				
地 震 力	令88.	告1,793	標準層せん断力係数 Co=								
土 圧	令83.		擁壁	Ka=							
使 用 材 料	コンクリート	令74. 令91.	強度 $F_c = N/mm^2$		使用場所						
	鉄 筋	令90.	告1,794	SR	SD						
	鋼 材	令90.	告1,794	SS	SM				SN		
	ボ ル ト	令90.	告1,795	高力ボルト FT		中ボルト					
	ア ー ク 溶 液	令92.	告1,794								

構造 鉄骨造-2

項 目		適用条項	チ ェ ッ ク 項 目			
地耐力及びくいの耐力	地 盤 調 査	令93. 告111	地盤調査 有 無 結果表 深さ m	支持層の 土 質		N 値=
	許 容 地 耐 力	令93. 告111	基礎 深さ GL - m	計算上 の採用 Df = m		長期 短期 t/m ² t/m ²
	くいの許容耐力	令93. 告111	くい種	くい径 cm	くい長さ m	長期 t/本
			水平力に対する検討 有 無			短期 t/本
基 礎	型 式		・ 独立基礎	・ 複合基礎	・ 布基礎	・ ベタ基礎
	接 地 圧		長期 最大接地圧 (又はくい反力)=		短期 最大接地圧 (又はくい反力)=	
	偏 心		偏心基礎 有 無		有のときの処理方法	
	異 種	令38.	異種基礎の併用 有 無 (原則として異種基礎の併用は避ける)			
	沈 下	令38.	沈下に対する検討 有 無			
	隣 接		隣接建物に対する考慮 有 無			
構 造 計 画	架 構 方 式		架 構		異種構造との複合 有 無	
	剛 性 の 確 保	令36.	部材変形の考慮			
	振 り の 補 正	令36.	ブレース、壁配置による振り回避考慮			
	転 倒		転倒検査の 有 無 H/B=			
	計 算 仮 定		柱脚の固定度	・ 固 定	・ 半固定	・ ピン
	水 平 力 処 理		梁間 けた行		同方向にラーメンと ブレースの混在 有 無	
	主 架 構 材 料		形状			
	鉄 骨 被 覆		耐火被覆 有 無			
増 築 予 定		有 無		階 GL+ m	屋上増築 の取扱い	

V 設計要領等

構造 鉄骨造-3

項目		適用条項	チェック項目									
準備計算	ラーメンと壁	階 方向	B ₂	B ₁	1	2	3	4	5			
	ブレース 分担比	x方向 ブレース(%)										
		y方向 ブレース(%)										
	水平力の算定	建物 重量 (t/m ²)										
応力計算	鉛直荷重時	令82.	剛域考慮 有 無									
	水平荷重時	令82.	フェースモーメント採用 有 無						1 F 反曲点高さ y=×h			
断面計算	座屈 座屈 細長比	座屈 (応力度)	fdの検討						fcの検討			
		座屈長さ	座屈長さの補正 有 無									
		令65.	柱λ ≤ 200、柱以外λ ≤ 250、素材λ ≤ 50、ラチスλ ≤ 160									
	はり たわみ 断面	算定位置	・柱面 ・ハンチ端 ・継手部 ・中央部で検討									
		一般ℓ/ 片持ℓ/ クレーン走行ばりℓ/										
		2方向曲げの検討										
	引張材	ボルト欠損、偏心による有効断面の検討										
	局部応力	集中荷重を受ける場合の局部応力の検討										
	母屋・胴縁	2方向応力の合成										
	方法 応伝力達	仕口	高力ボルト	溶接	ボルト					溶接と他接合との併用 有無		
継手		高力ボルト	溶接	ボルト					溶接と他接合との併用 有無			
仕口		令67.	パネルの部分の検討						スチフナーの検討			

構造 鉄骨造-4

項 目		適用条項	チ ェ ッ ク 項 目				
接 合 部	応力伝達	接 合	令67.	溶接部（溶接、高力ボルトetc）の検討			
		2次応力	令67.	部材軸の偏心による有効断面の検討			
	溶接	設 計	令92. 告1794.	溶接仕様（継目形式、開先形状、サイズetc）の指定 有 無			
		施 工	令92. 告1794.	溶接施工性の考慮	現場溶接の 有 無	検査方法	
	高力ボルト	令68. 告1795.	穴、ピッチ、縁端距離		引張、せん断の併用 有 無		
	ボ ル ト	令67	ボルトの使用範囲規制についての考慮				
	柱 脚	令66	ベースプレート、アンカーボルトの検討	根巻きコンクリートの有無 H= m			
屋根及び床		使用材料	主架構との 接 合 方 法				
基 礎	曲げモーメント	処 理 方 法	つなぎばり	基 礎			
	水 平 力	処 理 方 法	接 地 圧	側 面 土 圧	く い の 水 平 抵 抗		
	引 抜 力	基礎の浮き上り 有 無					
筋 か い の 検 討	筋 かい	接合部 $A_j\sigma_u \geq 1.2AG\sigma_y$					
		接合部の破断耐力 $A_j\sigma_u$					
		1. ブレース軸部で破断する場合	$A_j\sigma_u = A, b\sigma_u$				
		2. ブレース材の接合ファスナで破断する場合	$A_j\sigma_u = 0.75A2f\sigma_u$				
		3. ファナスのはしあき部分で破断する場合	ブレース材の場合 $A_j\sigma_u = 2A3b$	ガセットプレート $A_j\sigma_u = 2A3g$			
		4. ガセットプレートの破断による場合	$A_j\sigma_u = A4g\sigma_u$				
		5. 溶接部で破断する場合	すみ肉溶接の場合 $A_j\sigma_u = 1A5\alpha\sigma_u$	つき合せ溶接の場合			
			ブレース軸力も引張力で負担 $A_j\sigma_u = 2A5\sigma_u$				
	ブレース軸力をせん断力で負担 $A_j\sigma_u = 32A5\alpha\sigma$						

V 設計要領等

構造 鉄骨造-5

項目		適用条項	チェック項目												
耐震上の検討 (二次設計)	①	2次設計の必要性	告1790右、すべてに該当する場合必要なし	・地上回数 ≤ 3		・高さ ≤ 12 m									
	② (①以外)	層間変形角	令 82 の 2	・ $\sigma/h \leq 1/200$		・ 検討の必要なし									
			階												
			方向												
		x 方向													
		y 方向													
	③	剛性率	令 82 の 3	・ $R_s(=re/\sqrt{re}) \leq 0.6$		・ 検討の必要なし									
			階												
			方向												
			x 方向												
	y 方向														
H ≤ 31	偏心率	令 82 の 3	・ $Re(=e/re) \leq 0.15$		・ 検討の必要なし										
		階													
	その他	告 1 7 9 1	<ul style="list-style-type: none"> 筋かいを設けた地上階の応力割増をしているか 筋かいの軸部降伏より、さきに端部及び接合部で破断しない 局部座屈、破断の検討をしているか 												
④ H ≤ 60	保有水平耐力	令 82 の 4 告 1 7 9 2	・ $Q_u \geq Q_{un} (=D_s F_{es} Q_{ud})$		・ 検討の必要なし										
		階													
		方向													
	x 方向														
	y 方向														

設 備 - 1

項 目	消防法施行令	火災予防条例	設備の必要性の有無	その他チェック事項	判定
消 火 器 具	令 10 条		有 ・ 無		適・否
屋 内 消 火 栓	令 11 条	例 38 条	〃		〃
ス プ リ ン ク ラ ー 備 設	令 12 条	例 39 条	〃		〃
自 動 火 災 報 知 設 備	令 21 条		〃		〃
ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備	令 21 - 2 条		〃		〃
漏 電 火 災 報 告 設 備	令 22 条		〃		〃
消 防 機 関 へ 通 報 する 火 災 報 知 設 備	令 23 条		〃		〃
非 常 警 報 設 備	非 常 ベ ル 自 動 サ イ レ ン	令 24 条	〃		〃
	放 送 設 備	令 24 条	〃		〃
避 難 器 具	令 25 条	例 44 条	〃		〃
避 難 口 誘 導 灯 路 誘 導 灯 客 席 誘 導 標 識	令 26 条		〃		〃
排 煙 設 備	令 28 条		〃		〃
連 結 散 水 設 備	令 28 条 の 2		〃		〃
連 結 送 水 設 備	令 29 条		〃		〃
非 常 コ ン セ ン ト 設 備	令 29 条 の 2		〃		〃

公会堂又は集会場

V 設計要領等

設 備 - 2

項 目		消防法施行令	火災予防条例	設備の必要性の有無	その他チェック事項	判定	
共同住宅・寄宿舎	消 火 器 具	令 10 条		有 ・ 無		適・否	
	屋 内 消 火 栓	令 11 条	例 38 条	〃		〃	
	ス プ リ ン ク ラ ー 備 設	令 12 条	例 39 条	〃		〃	
	自 動 火 災 報 知 設 備	令 21 条	例 41 条	〃		〃	
	ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備	令 21 - 2 条		〃		〃	
	漏 電 火 災 報 警 設 備	令 22 条		〃		〃	
	消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 災 報 知 設 備	令 23 条		〃		〃	
	非 常 警 報 設 備	非 常 ベ ル 自 動 サ イ レ ン	令 24 条		〃		〃
		放 送 設 備	令 24 条		〃		〃
	避 難 器 具	令 25 条		〃		〃	
	避 難 口 誘 導 灯 道 路 誘 導 灯 客 席 誘 導 標 識	令 26 条		〃		〃	
	排 煙 設 備			〃		〃	
	連 結 散 水 設 備	令 28 条 の 2		〃		〃	
連 結 送 水 設 備	令 29 条		〃		〃		
非 常 コ ン セ ン ト 設 備	令 29 条 の 2		〃		〃		

設 備 - 3

項 目		消防法施行令	火災予防条例	設備の必要性の有無	その他チェック事項	判定	
病院・診療所及び特殊学校	消 火 器 具	令 10 条		有 ・ 無		適・否	
	屋 内 消 火 栓	令 11 条	例 38 条	〃		〃	
	ス プ リ ン ク ラ ー 備 設	令 12 条	例 39 条	〃		〃	
	自 動 火 災 報 知 設 備	令 21 条		〃		〃	
	ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備	令 21 - 2 条		〃		〃	
	漏 電 火 災 報 知 設 備	令 22 条		〃		〃	
	消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 災 報 知 設 備	令 23 条		〃		〃	
	非 常 警 報 設 備	非 常 ベ ル 自 動 サ イ レ ン	令 24 条		〃		〃
		放 送 設 備	令 24 条		〃		〃
	避 難 器 具	令 25 条		〃		〃	
	避 難 口 誘 導 灯 路 誘 導 灯 客 席 誘 導 標 識	令 26 条		〃		〃	
	排 煙 設 備			〃		〃	
	連 結 散 水 設 備	令 28 条 の 2		〃		〃	
	連 結 送 水 設 備	令 29 条		〃		〃	
非 常 コ ン セ ン ト 備 設	令 29 条 の 2		〃		〃		

V 設計要領等

設 備 - 4

項 目		消防法施行令	火災予防条例	設備の必要性の有無	その他チェック事項	判定	
各 種 学 校	消 火 器 具	令 10 条		有 ・ 無		適・否	
	屋 内 消 火 栓	令 11 条	例 38 条	〃		〃	
	ス プ リ ン ク ラ ー 設 備	令 12 条	例 39 条	〃		〃	
	自 動 火 災 報 知 設 備	令 21 条		〃		〃	
	ガ ス 漏 れ 報 警 設 備	令 21 条		〃		〃	
	漏 電 火 災 報 警 設 備			〃		〃	
	消 防 機 関 へ 通 報 する 火 災 報 知 設 備	令 23 条		〃		〃	
	非 常 警 報 設 備	非 常 ベ ル 自 動 サ イ レ ン	令 24 条		〃		〃
		放 送 設 備	令 24 条		〃		〃
	避 難 器 具	令 25 条	例 44 条	〃		〃	
	避 難 口 誘 導 灯 誘 導 灯 誘 導 灯 誘 導 標 識	令 26 条	例 45 条	〃		〃	
	排 煙 設 備			〃		〃	
	連 結 散 水 設 備	令 28 条 の 2		〃		〃	
連 結 送 水 設 備	令 29 条		〃		〃		
非 常 コ ン セ ン ト 設 備	令 29 条 の 2		〃		〃		

設 備 - 5

項 目		消防法施行令	火災予防条例	設備の必要 性の有無	その他チェック事項	判 定	
博 物 館 ・ 美 術 館 ・ 図 書 館	消 火 器 具	令 10 条		有 ・ 無		適 ・ 否	
	屋 内 消 火 栓	令 11 条	例 38 条	〃		〃	
	ス プ リ ン ク ラ ー 設 備	令 12 条	例 39 条	〃		〃	
	自 動 火 災 報 知 設 備	令 21 条		〃		〃	
	ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備	令 21 条		〃		〃	
	漏 電 火 災 警 報 設 備			〃		〃	
	消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 災 報 知 設 備	令 23 条		〃		〃	
	非 常 警 報 設 備	非 常 ベ ル 自 動 サイレン	令 24 条		〃		〃
		放 送 設 備	令 24 条		〃		〃
	避 難 器 具	令 25 条	例 44 条	〃		〃	
	避 難 口 誘 導 灯 道 路 誘 導 灯 客 席 誘 導 灯 誘 導 標 識	令 26 条		〃		〃	
	排 煙 設 備			〃		〃	
	連 結 散 水 設 備	令 28 条 の 2		〃		〃	
	連 結 送 水 設 備	令 29 条		〃		〃	
非 常 コ ン セ ン ト 設 備	令 29 条 の 2		〃		〃		

V 設計要領等

建築工事積算

項目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
(1)仮設工事 ・やりかた	㎡ 走㎡		○建物の建築面積で算出したか。 (地階及びドライエリア等の突出部を含む)＜備考一般的及び、小規模、複雑なものとの区分けしたか。＞		適・否	
・原寸型板、墨出し	延㎡		○建物延面積で算出したか。		適・否	
・外部足場	架㎡		○外壁面積を概略検討したか。 (単管抱、単管本、枠組本別及び高さ、期間別に計上したか。)		適・否	
・登り栈橋、安全手摺	m		○存置期間は適正か。		適・否	
・養生シート等	架㎡		○単管本足場、枠組足場の経済比較をしたか。		適・否	
・鉄筋型枠足場(く体用)	延㎡		○必要性及び設置箇所を検討したか。 (存置期間別に計上したか。)		適・否	
・内部足場(仕上用)	延㎡		○必要性及び設置箇所を検討したか。 (防護網、仮囲い等も合わせて検討したか。又車の搬入出路、及び付近住民の安全対策も検討したか。)		適・否	
・鉄骨足場(吊り足場)	延㎡		○建物延面積で算出したか。(高さ4m未満) (く体支保工との重複はないか。)		適・否	
・コンクリート足場	延㎡		○建物延面積で算出したか。(高さ4m未満) (仕上用足場との重複はないか。)		適・否	
・く体支保工	㎡		○建物延面積で算出したか。 (必要部分の検討をしたか。)		適・否	
・仕上用足場	㎡		○建物延面積で算出したか。 ○人力打設(カート道)とポンプ車使用(配管型)に分けたか。		適・否	
・養生費	延㎡		○階高別に計上したか。		適・否	
・整理清掃、片付	延㎡		○鉄筋型枠足場との重複はないか。		適・否	
・仮設材運搬費	㎡		○階高別に計上したか。		適・否	
			○内部足場との重複はないか。		適・否	
			○建物の延床面積で算出したか。 (一般的及び、小規模・複雑なものに区分けしたか。)		適・否	
			○建物の延床面積で算出したか。 (一般的及び、小規模・複雑なものに区分けしたか。)		適・否	
			○各足場類は運搬距離毎に算出したか。		適・否	
			○基点は適正か。		適・否	
			○面積表の数値と合致しているか。		適・否	
(2)土工事(計画数量)						
・地均し、整地(人力)	㎡		○現地盤(敷地の平均の高さ)が、30cm以内の高低差になっているか。		適・否	
・地均し、整地(機械)	㎡		○土質の判定をしたか。		適・否	
・切土(人力)	㎡		○法面の長さ、勾配を検討したか。		適・否	
・根切り(人力)	㎡		1. 土質の判定をしたか。		適・否	
・根切り(機械)	㎡		2. 法面の勾配を検討したか。		適・否	
・すきとり	㎡		3. 余巾の計算は妥当か。		適・否	
			4. おおよその土量を計算したか。		適・否	
			5. 機械掘りの場合は、機械の容量を検討したか。		適・否	
			6. 機械類の搬入出路を検討したか。		適・否	

V 設計要領等

項目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
(4)コンクリート工事 ・コンクリート	m ³		○コンクリートの種別、設計強度(呼び強度を含む。)、スランプ等により区分したか。 ○階層、部位(区分)別に集計したか。 ○鉄骨によるコンクリートの控除を行ったか。 ○壁、柱、梁で外部に面する打放しコンクリート部分の増打ち及び意匠上の増打ちの見落としはないか。 ○防水押さえコンクリートの見落としはないか。 ○土間、犬走りコンクリートの見落としはないか。 ○コンクリートブロック壁の立上がり、立下がりの見落としはないか。 ○温度補正は適正か。 ○機械基礎は建築工事か設備工事か。		適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否	
・型枠	m ²		○基礎、地上の普通、打放し及び階高別区分したか。 ○木製打放し(木本実)、打込みタイル、曲面等の区別をしたか。 ○普通型枠と打放し型枠との重複はないか。		適・否 適・否 適・否	
・コンクリート打設費	m ³		○階層、部位(区分)別に集計したか。 ○型枠数量を概略検討したか。 ○ポンプ車使用と不使用の場合の区分けをしたか。		適・否 適・否 適・否	
・型枠運搬費	m ²		○ポンプ車使用の場合1日(1回)の打設量を検討したか。 ○運搬距離は適切か。		適・否 適・否	
(5)鉄筋工事 ・鉄筋	t		○各区分に従い規格、形状、寸法毎に区別したか。 ○帯筋組立の形を確認したか。 ○開口部及びコンクリート貫通箇所等の補強筋の見落としはないか。 ○階層部位(区分)別に集計したか。 ○所要数量を計上したか。		適・否 適・否 適・否 適・否	
・加工組立	t		<備考建築数量積算基準による> ○鉄筋数量を概略検討したか。 ○設計数量を計上したか。		適・否 適・否	
・ガス圧接	箇所		○スクラップ処理を計上したか。		適・否	
・溶接金網	m ²		○径別に圧接箇所数を算出したか。 ○径、網目を確認したか。		適・否 適・否	
(6)鉄骨工事 ・材料費 (鋼材、ボルト)	t		○各区分に従い、規格、形状、寸法毎に区別したか。(設計数量)		適・否	
・鉄骨工場加工組立	t		○所要数量を計上したか。<備考建築数量積算基準による。> ○用途(規模別)使用数量に区分し算出したか。 ○設計数量を計上したか。		適・否 適・否 適・否	

V 設計要領等

項目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
			<p>しモルタル塗りか。</p> <p>○防水層の保護を確認したか。 (歩行用、非歩行用、塗装等の区分け含む。)</p> <p>○特記仕様書を確認したか。</p>		適・否 適・否	
(9)石工事 ・共通事項			<p>○材種、形状、寸法、仕上げの種類別に区別したか。</p> <p>○役物類を計上したか。</p> <p>○材種による特則に従って計算したか。</p> <p>○特記仕様書を確認したか。</p> <p>○取付金物の見落としはないか。</p>		適・否 適・否 適・否 適・否 適・否	
(10)タイル工事			<p>○[外部仕上]外壁、外部開口部、外部天井、外部床と[内部仕上]内壁、内部開口部、内部床とに区分けしたか。</p> <p>○材種、形状、寸法、工法別に区別したか。 役物類として処理したか。</p> <p>○その場合、一般タイルの平面積から、役物の面積を控除したか。</p> <p>○積み上げ張り、圧着張りに区別したか。</p> <p>○下地モルタルは、左官工事と重複しないか。</p> <p>○積み上げ張り、圧着張り、改良圧着張り、打込みタイル張りに区別したか。</p> <p>○下地モルタルは、左官工事で計上したか。</p> <p>○クリンカータイル張りに準ずる工法、一般床タイル張りに準ずる工法に区別したか。</p> <p>○下地モルタルは、含んでいるが、左官工事と重視していないか。</p> <p>○シーリング材を計上したか。 (位置、材種、寸法を確認したか。)</p>		適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否	
・内壁タイル	m ²				適・否	
・外壁タイル	m ²				適・否	
・モザイクタイル	m ²				適・否 適・否	
・伸縮目地	m				適・否 適・否	
(11)木工事 ・共通事項			<p>○1 木材を樹種、等級別に区別したか。</p> <p>○部材断面(横寸法×縦寸法)が引出し線で示されている場合は、ひき立て寸法。寸法線で記入されている場合は、仕上がり寸法を示しているか確認したか。</p> <p>○所要数量で算出したか。 <建築数量積算基準による。></p> <p>○おおよその木材数量を検討したか。</p> <p>○本数、枚数を数量としたか。</p> <p>○おおよその大工(手伝)人数を検討したか。 (RC、S、W造)</p>		適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否	
・構造材、小割材					適・否	
・造作材、板材	枚、m ³				適・否	
・銘木、縁甲板	人、m ³				適・否 適・否	
・工作費 (大工・普通作業員)					適・否	

項目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目 と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
(12)金属工事						
・長尺鉄板瓦棒ぶき	m ²		○木造の場合と、鉄骨の場合と区別したか。		適・否	
・折板ぶき	m ²		○部分吊子、通し吊子と区別したか。 ○下ぶき材料を計上したか。		適・否 適・否	
・軽量鉄骨壁下地	m ² 箇所		○厚さ、亜鉛引、カラー、結露防止処理品 を検討したか。 ○役物類を計上したか。		適・否 適・否	
・軽量鉄骨天井下地	m ² 箇所		○スタッドの種類を確認をしたか。 ○開口部の補強を形状毎に区別し、個所数 を数量としたか。		適・否 適・否	
・下地ラス張り	m ²		○間柱の間隔[捨張りの有無]、間柱の高さ [3.0m未満か3.0m以上か]毎に区別した か。		適・否	
・金属成型板張り	m ²		○下り壁の見落しはないか。		適・否	
・軒どい	m		○野縁等の種類を確認をしたか。 ○野縁の間隔で区別したか。(下張りがある 場合、ない場合)		適・否 適・否	
・たてどい	m		○開口部の補強を形状毎に区別し、個所数 を数量としたか。		適・否	
・ルーフトレン	箇所		○(フェルト共)形状、寸法毎に区別したか。		適・否	
・足元養生管	箇所		○表面仕上げ、規格、形状、厚さ毎に区別 したか。		適・否	
・フリーアクセスフロア	m ²		○材質、形状、寸法毎に区別し、長さを確認 したか。		適・否	
・すべり止め金具 (ノンスリップ)	m		○材質、形状、寸法毎に区別し、長さ又は、 個所数を確認したか。		適・否	
・木製カーテンボックス 吊り金物	箇所		○屋内防露の有無を確認したか。		適・否	
・鋼製カーテンボックス 吊り金物	箇所		○形状、寸法、個所数を確認したか。		適・否	
・天井改口	箇所		○アスファルト防水用、モルタル防水用、 堅型、棟型の区別をしたか。		適・否	
・その他の金物			○形状、寸法、個所数を確認したか。		適・否	
・すべり止め金具 (ノンスリップ)	m		○材質、形状、寸法による長さ又は、個所 数を確認したか。		適・否	
・木製カーテンボックス 吊り金物	箇所		○材質、形状、寸法による長さ又は、個所 数を確認したか。		適・否	
・鋼製カーテンボックス 吊り金物	箇所		○材質、形状、寸法による長さ又は、箇所 数を確認したか。		適・否	
・天井改口	箇所		○材質、形状、寸法による箇所数を確認し たか。		適・否	
・その他の金物			○材質、形状、寸法による長さ又は、箇所 数を確認したか。		適・否	
(13)左官工事						
・共通事項			○外部仕上げ、内容仕上げ及び壁、開口部 天井、床(屋根)、雑に区別したか。		適・否	
・打放し仕上面 表面処理(下地処理)			○笠本、庇、鼻、ボーダー、見切り、幅木、 水切り、膳板などの数量は、形状、寸法 による高さ、幅、又は糸尺毎の延べ長さ によったか。		適・否	
			○主仕上の種類、下地毎に区別したか。		適・否	
			○打放し仕上面 種別を区別したか。		適・否	

項目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目 と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
(19) 共通費						
① 共通仮設費						
・ 準備費	%		○特別な専門工事を含む場合の扱いを確認したか。		適・否	
			○実情により積み上げ計上したか。 (仮設道路の必要性、工法の検討、復旧費用の検討を行ったか。)		適・否	
・ 仮設物費			○必要に応じ構造別に率で計上したか。 (小、中、大規模工事により区別する。)		適・否	
・ 仮囲い	m		○必要性に応じ生子板、万能板塀等で計上したか。		適・否	
・ 動力、用水光熱費	%		○必要に応じ構造別に率で計上したか。		適・否	
・ 試験調査費						
・ 整理清掃						
・ 機械器具費						
・ 運搬費						
・ その他			○実情により積み上げ計上したか。		適・否	
② 諸経費	%		○(純工事費×諸経費率)により計上したか。		適・否	
			○特別な専門工事を含む場合の扱いを確認したか。		適・否	
			○諸経費率の読み取り違いがないか確認したか。		適・否	

V 設計要領等

項 目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項

電気設備工事積算

項目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目 と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
(1)土 工 事						
・地均し・整地(人力)	m ²		○現地盤(敷地の高さ)が、30cm 以内の高 低差になっているか。		適・否	
・地均し・整地(機械)	m ²		○土質の判定をしたか。		適・否	
・切 土(人力)	m ³		○法面の長さ、勾配を検討したか。		適・否	
・根切り(人力)	m ³		○土質の判定をしたか。		適・否	
・根切り(機械)	m ³		○法面の勾配を検討したか。		適・否	
			○余巾の計算は妥当か。		適・否	
			○おおよその土量を計算したか。		適・否	
			○機械掘りの場合は、機械の容量を検討し たか。		適・否	
・埋戻し(人力)	m ³		○機械類の搬入、出路を検討したか。		適・否	
・埋戻し(機械)	m ³		○人力および機械の埋め戻しの検討をし たか。		適・否	
			○埋戻しの数量=根切の数量-(地下構造 物の体積+砂利の体積+砂敷きの体積) を確認したか。		適・否	
・残土処理(場内)	m ³		○残土処理の数量=根切の数量-埋戻しの 数量		適・否	
・残土処理(場外)	m ³		<備考・敷地が狭く仮敷きが出来ない場 合は、残土処理として計上する>			
・割石・玉石地業	m ³		○面積と厚さの確認をしたか。		適・否	
			<備考・計画数量>		適・否	
・切込み砂利地業	m ³		<備考・計画数量>		適・否	
・砂利及び砕石地業	m ³		<備考・計画数量>		適・否	
・砂地業	m ³		<備考・計画数量>		適・否	
・水替費(排水)	個所 日		○排水計画等を検討し、それに基づいて算 出したか。		適・否	
・山止め	個所 m		○山止め計画が与えられ、それに基づいて 算出したか。独自に想定したものか。		適・否	
・機械運搬費	台		○各機械の運搬距離(km)を検討の上計上 したか。		適・否	
(2)コンクリート工事						
・コンクリート	m ³		○コンクリート強度を確認したか。		適・否	
・型 わ く	m ²		○機械基礎等は建築工事が設備工事か。		適・否	
・コンクリート打設	m ³		○布・独立・壁式・他の区別をしたか。		適・否	
・型わく運搬費	m ²		○ポンプ車使用か、人力打設か。		適・否	
			○運搬距離 (km) を検討の上計上したか。		適・否	
(3)電灯設備						
・管材	m		○種別・用途別に計上しているか。		適・否	
・コンセント	個		○種類別に計上しているか。		適・否	
・スイッチ	個					
・照明器具	台		○種別に計上しているか。		適・否	
・電 線	m		○種別・用途別に計上しているか。		適・否	
(4) 動力設備						
・盤	面		○内容が明記されているもので計上してい るか。		適・否	
・電線	m		○種別・用途別に計上しているか。		適・否	
・管材	m		○種別・用途別に計上しているか。		適・否	
			○管材附属品(防火区画・火気廻りに使用 する)を種別・用途別に計上しているか。		適・否	

V 設計要領等

項 目	単 位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
(5)電力設備 ・配管・配線 ・ハンドポール	m 個		○埋設深さは明記されたものから計上しているか。 ○材質・規格別に計上しているか。 ○複合単価で計上しているか。 ○根切りは重複していないか。		適・否 適・否 適・否 適・否	
(6)受変電・自家発 ・機器 ・煙 導 ・冷却装置	台 ㎡		○材質・規格が明記されたもので計上しているか。 ○搬入・据付費を見ているか。 ○規格が明記されたもので計上しているか。 ○機械設備工事による計上をしたか。		適・否 適・否 適・否 適・否	
(7)電話配管配線 ・配管配線 ・端子盤	m 面		○材質、用途別に計上しているか。 ○材質、種別により計上しているか。		適・否 適・否	
(8)電気時計 ・機 器	台		○材質、規格が明記されたもので計上しているか。		適・否	
(9)拡声・テレビ共聴 ・機器 ・アンテナ	台 個		○材質、規格仕様が明記されたもので計上されているか。 ○基礎の工事区分が明記されて計上しているか。		適・否 適・否	
(10)弱電 ・機 器	台		○材質、規格仕様が明記されたもので計上しているか。		適・否	
(11)配電線路 ・配管・配線 ・ハンドホール ・電 柱	m 個 本		○種別、使用場所別に計上しているか。 ○埋設詳細図により計上しているか。 ○複合単価で計上しているか。 ○根切りは別にみたか。		適・否 適・否 適・否 適・否	

機械設備工事積算

項 目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
(1)土 工 事			電気設備工事と同じ		適・否	
(2)コンクリート工事			電気設備工事と同じ		適・否	
(3) 衛生器具 ・衛生陶器	組		○1組の内容をつかんで積算しているか。 ○節水形かどうか。 ○電気工事分は電気工事歩掛りで積算したか。 ○規格、種別によるヶ所数を数量としているか。		適・否	
・節水装置	台			適・否		
・化粧棚	組			適・否		
・水石けん入れ ・注意板	組 個 枚			適・否 適・否 適・否		
(4)屋内給水設備 ・管 材 ・水 槽	m 槽		○管種別に、また同一種でも場所別に数量を出しているか。 ○材質・規格を明記して計上しているか。 ○架台は材質、規格は明記し計上しているか。 ○種別、規格等に分けて数量を算出しているか。		適・否	
・保 温	m			適・否		
(5)屋外給水 ・管 材 ・弁・水栓	m 個		○材質・規格による数量積算か。 ○材質・規格による数量積算か。 ○弁樹は複合かどうか。		適・否 適・否 適・否	
(6)屋内排水 ・管 材	m		○材質・規格による数量で積算したか。		適・否	
(7)屋外排水 ・管 材 ・ 樹	m 個		○材質・規格による数量で積算したか。 ○複合単価で計上しているか。 ○根切りは重複していないか。		適・否 適・否 適・否	
(8)消火 ・管 材 ・屋内消火栓 ・ポンプ	m 組 台		○材質、規格による数量で積算したか。 ○種類、内容別に数量を計上しているか。 ○ユニット形か個別形か。 ○付属品がどこまで含まれているか、明記しているか。 ○基礎の種類は、また建築工事と区分は明らかか。		適・否 適・否 適・否 適・否 適・否	
(9)給湯 ・管 材 ・機 材 ・保 温	m 台 m		○材質、規格に数量を計上しているか。 ○規格、材質により計上しているか。 ○管種別・保温別に計上しているか。		適・否 適・否 適・否	
(10)焼却炉 ・本 体 ・電気工事 ・基 礎	台		○形式、附属台など明確に計上しているか。 ○他工事と区分が明らかになっているか。		適・否 適・否	

V 設計要領等

項目	単位	積算者 チェック	チェック項目	チェック項目と相違点	適・否	指示及び 打合せ事項
(11)し尿浄化槽 ・本体 ・機器 ・防臭ふた ・フェンス ・ポンプケーブル ・フロシートパネル ・消毒剤	基 台 枚 m ² m 枚 kg		○種別、構造を考慮した計上をしているか。 ○規格別に計上しているか。 ○施工区分を明確にして計上しているか。 ○電線の太さ、長さを考慮したか。 ○材質、規格が明記され計上しているか。 ○適正な数量を計上しているか。		適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否	
(12)ガス ・管材 ・機器	m 個		○材質、規格別に計上しているか。 ○種別、形式が明記されたもので計上されているか。		適・否 適・否	
(13)空調 ・機器 ・種 導 ・風 導 ・管材 ・支持金物 ・基礎 ・保温	台 m ² m ² m ヶ所 % ヶ所 m m ²		○材質、規格が明記されたもので計上されているか。 ○詳細図により積算しているか。 ○寸法による板厚で計上しているか。 ○塗装は計上しているか。 ○補強材は計上しているか。 ○種別使用場所別に計上したか。 ○用途別、大きさ別に計上したか。 ○種別、大きさ、工事区分が明記されたもので計上しているか。 ○用途別、種別に計上しているか。		適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否 適・否	
(14)換気 ・機器 ・排気フード	台 ヶ所		○規格が明記されたもので計上したか。 ○換気扇等の取付金物等は計上しているか。 ○大きさによる板厚で計上したか。 ○附属品も計上したか。		適・否 適・否 適・否 適・否	
(15)地下油槽 ・管材 ・本体 ・附属機器 ・その他	m 台 個		○材質、規格別に計上したか。 ○規格が明記されているもので計上したか。 ○規格別に計上したか。 ○消防法によるもので計上しているか。		適・否 適・否 適・否 適・否	